

風が取り持つ友情を深めて

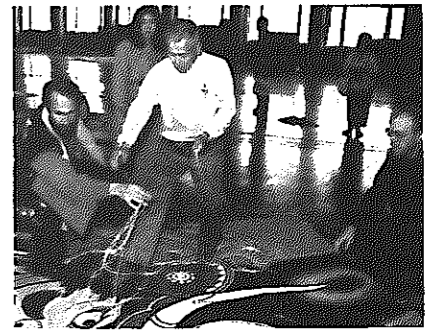
—日米親善風見学ツアー—

アメリカから風見学ツアーの一行が四月三十日から五月二日まで本市などを訪れ、親善風揚げ大会などで友好を深めました。一行はシアトル市に住むリズ・マンフィディーニさんら十人。三年前に亡くなったリズさんの父、デビッド・チャックリーさんは世界の風キチとして知られ、二十年ほど前、白根の大風をアメリカの空に掲げるための橋渡し役となった人。以来、本市の風関係者との交流が続いていたものです。



▲渡辺虎之助さんの六角扇に拍手を送る一行

五月一日、一行は滝沢市長を表敬訪問。市長は「風を愛する心に国境はないことがよく分かった。今度はぜひ大風合戦を見に来てほしい」とあいさつ。一行を代表してジョー・マンフィディーニさんが「故デビッドと、田村和雄さんがはじめとする多くの風愛好家との友情を受け継ぎ、私たちと白根市の友好関係を深めたい」とお礼の言葉を述べました。また、一行のケレン・グスタフソンさんが住むサンタバーバラ市の市長からの親書が滝沢市長に手渡されました。ツアーのメイン行事は日米親善風揚げ大会。一日午後、白根総合公園で日米の風が披露されました。一行はアメリカから何種類もの風を持参。あいにくの強風で大風は揚げられませんでした。六畳大の風が会場を盛り上げます。時ならぬ扇の乱舞に、大勢の見物人も。このほか一行は風資料室や、大風の製作、笹川邸などを見学。マンフィディーニ夫妻は「多くの人と接することができ、特に風の歴史に触れることができて有意義な訪問だった」と話していました。



▲風の製作見学。鼻緒の長さなど質問続出

愛情を持った活動に好感

国際紋り会 講演活動報告

国際紋り会(ISS)のスタッフが、四月二十六日白根紋りの伝承グループ「ふきのとう」の活動状況と作品を視察に訪れました。国際紋り会議は、十一月二十一日から三日間名古屋で開催され、ふきのとうもこの会議に招かれています。青年教育センターで行われた実技講習では、スタッフから染め方について指導を受けました。「技術的にはもう一歩だが、愛情を持って白根紋りに取り組む姿勢に好感を持った」とスタッフ。「技術を磨くためにも、名古屋の会議で勉強したい」とふきのとうの皆さんは意欲満々です。



親子連れで大盛況

おやこ劇場 大通センター

完成したばかりの大通地域生活センターで、四月二十日、おやこ劇場の地域公演「めつきらもつきらもおんどん」が行われました。会場は三百人を超える親子連れで、立ち見も出るほどの大盛況。夏から準備に当たってきた実行委員の渡辺さんは「何もかも初めてで心配しましたが、大勢の人が来てくれてほっとしました」と話します。劇は少年が裏山で山の精に出会って遊ぶというもの。空を飛んだり、宝物を探したり、子供の遊び心をふんだんに盛り込んだ内容に、親も子も夢中になったひとときでした。



観察の面白さを体験

親子の広場 植物観察

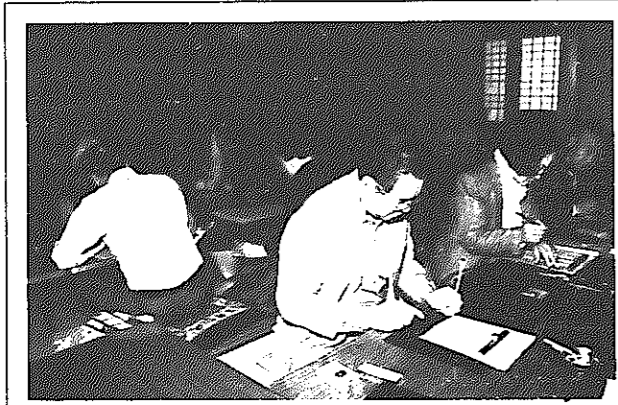
親子と一緒に学び、触れ合いの時を提供しようと中央公民館で企画した「親子の広場」の第一弾、植物観察が四月十九日に行われました。当日はあいにくの雨、肌寒い天候にもかかわらず、十三組三十五人の親子が参加。旧配水塔付近で二十二種類の草花を採取しました。講師の井部中央公民館長は「実際に生えている状況を見ることが大切。今後どう変化していくかが観察の面白さ」と話します。子供たちは「ふだん何気なく歩いている道端にも、いろいろな種類の草花があるんだなあ」と興味津々の様子でした。



写経を続けて20年

東福寺 写経会

東福寺(朝巻)の写経会が二十周年を迎え、五月十六日から三日間習作展示会を、十七日には記念写経会を開催しました。写経を目的としたグループは県内でも珍しく、市外の会員も数多くいます。会員の渡辺省三さんは「写経を通じて、お経のことはもちろん、筆や紙の歴史など、さまざまなことを教えてもらいました。二十一年間一度の休みもなく会を続けてこれたのも、東福寺さんをはじめとする先生方のおかげです」と話します。二十一年目の節目を迎え、会員らは気持ち新たに筆を走らせていました。



風作り実演で合戦をPR

ふるさと村 アピール館

大風合戦をPRしようと、黒埼町にある新潟ふるさと村で「白根大風合戦展」が六月八日まで開かれています。会場のふるさと村アピール館には二十四畳敷きの大風や六角扇のほか、観光パネルを展示。期間中は市観光協会の協力で、絵付けや骨組み、鼻緒立てなど、大風製作の実演も行われました。来館者は間近に見る大風の大きさにびっくりした様子で「本当にこれを揚げるんですか?」「材料は何ですか?」など質問も。五月十六日には来館者を交えた風揚げも行われ、大風合戦をPRしていました。



旧友を囲む輪がいつぱい

4年度 成人式

四年度の成人式が五月三日、カルチャーセンターで開かれました。この日成人を迎えたのは四百四十二人。会場は晴れ着姿の青年たちで、華やいだ雰囲気。あちこちで「久しぶりね」と旧友を囲む輪が広がります。滝沢市長は祝辞で「二十一世紀を担うのは皆さんたちだ。若さと情熱と斬新な発想で、市の発展を世代を超えて考えてもらいたい」とあいさつ。成人を代表して諏訪問三郎さん(次郎右エ門興野)と中川尚子さん(西酒屋)が「成人として自覚を持ち、自分の持つ力を精いっぱい発揮したい」と誓いの言葉を述べました。

